

# 全体授業研究会①(2年) 振り返りより



平成26年7月1日  
白島小学校 研修部

## 1 本時のねらいと学習問題とのつながり

- 授業後、児童に気付かせたいこと（今回であれば、何を持って「すごい。」とするのか。）を明確にする必要がある。子どもたち自身から問いを引き出すために、どのように仕組んでいくのか（今回であれば、店に行く目的を書き出すなど）を教材や単元と照らし合わせて考えていこうと思います。
- 「すごい。」という点について、授業のゴールがよく分かりませんでした。木村先生の話聞いて、今日の授業の進め方について分かりました。
- 授業のめあてを問いの形にすることに関して、私が授業をたてる時、どのようにするか悩んでいます。今日の協議会を通して、めあてからゴールまでをしっかりと考え、どのような問いの形でめあてをたてればよいかを考えていきます。
- まとめは、本時の学習問題に対して答える形で書かせる方がよいことを学び直しました。思ったことを書こうでは、ズレたことを書いてしまう子どもがいると思います。
- 問いからのつながり。問いで、学びが変わってくる。
- 生活科においても、問いの大切さが分かった。何をねらい、どう考えさせ、気付かせるのかを明確に持つておかないと、授業がブレてくる。
- 自分の反省として、その時間に「ねらう」事柄を精選しておく必要を感じました。改めて、子どもにより体験をさせるための準備の大切さを感じました。
- 問いの質が大切だということが分かりました。

## 2 思考と授業の仕組み方

- 日々の授業づくりでも、有森先生に、カテゴリ分けをするとよいと言われていました。今回の授業で、気付きの質を高めるために、カテゴリ分けをして整理するだけで、こんなにもちがった授業になるのだと驚きました。
- 自分を出発点として、身のまわりのものをつなぐ点（線？）。中学年以上の社会科なら、自分—社会的事象であったり、社会的事象同士だったり、応用ができると思います。つなぐ太さや色からも児童の思考の過程をみとるのに役立つと思います。
- 生活科のまとめ方がよく分からなかったが、思考のパターンとして整理するということが分かったので、実践していきたい。他の思考があれば知りたい。
- 「思考ツール」一板書につながるので、参考になった。  
(←本年度研究推進計画を参考にしてみてください。)
- ワークシートの使い方、「つながり」について学ぶことができました。言葉の難しさを感じました。

## 3 学び合い？

- 一人一人が考えを出し合い→学び合う。こういう場をつくる。
- 子どもの発達段階もあると思いますが、ペアやグループでの話し合いの仕方を教えることの大切さに気付きました。

## 4 協議会について

- 少人数で協議することで、話を深めることができた。

- グループ協議は、とてもよかったです。低学年の先生も入っておられ、生活科の授業の様子、本時までの過程、悩んだ点なども聞けて、本時が3次元的な感じで見えました。
- 学年等を崩した協議会、とてもよかったです。

## 徒然なるままに...15 お付き合いください！

### — 「つながり」を感じる思考とその支援 —

今年度も、全体授業研究会がはじまりました。今回は、何も起こることなく、皆さんそろって無事に行うことができたことに、正直一安心でした。(昨年度は、全体授業研となると、何かが起こっていましたから。)

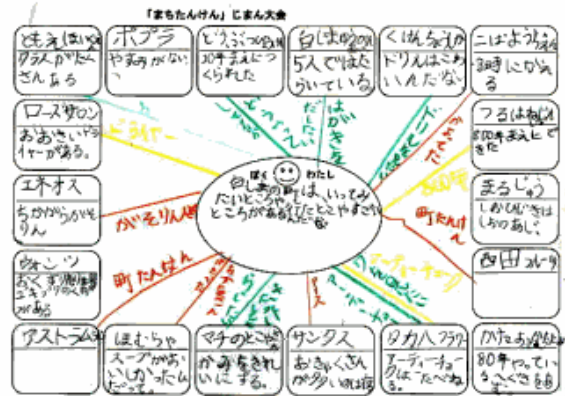
さて、今回は、2学年の提案でした。低学年ブロックの先生方、大変お疲れ様でした。地域へ何度も出掛けられたり、文献にじっくりと当たって指導案検討されたりと、よりよい授業づくりへと、献身的に取り組まれている姿に頭が下がりました。



今回の授業のキーワードとなったのは、「つながり」でした。本時の学習問題は、「私たちは、白島の町とどれだけつながっているのか。」でした。「どれだけ」とは、つながりの程度や数を問うことになります。しかし、本時では、町の様々な場所と単につながっていることを実感するだけでは、気付きの高まりとしては、十分とは言えません。

そこで、「どのようにつながっているのだろうか。」と問い、それぞれの場所の自分にとっての役割、言い換えれば、つながり方を明らかにする必要があったと考えられます。そして、〈資料①〉のように、「ぼく・わたし」と場所をつないだ上で、「私たちの回り」にある場所は、私たちにとって、どんなところだろうか。」と問うことによって、回りの場所に共通する、私たちの生活に役立っていることに気付くことができたと考えられます。

さらに、木村先生がおっしゃったように、役割ごとに分類することも考えられます。場所によって役割が違い、自分の必要に応じて場所を選んでいるというかわかり方の違いに気付いたり、商店・製造・施設など、社会科で学習する人々の仕事に目を向けたりすることができると考えられます。



〈資料①：「まちたんけん」ワークシート〉

今回、ここまで述べた思考を支援するために、〈資料①〉のように、ワークシートを工夫されました。これは、まさに、本時の思考を構造的に示したものと言えるでしょう。まず、「ぼく・わたし」の周りに、町にある場所を置き、役割ごとに「分類」しながら線で結びます。でき上がった図は、町と自分たちとのかかわりを「構造化」したものです。その上で、それぞれの場所とのつながりを「比較（類比）」することによって、それぞれの場所が自分たちに役立っているという共通点が見えてきます。このように、

ワークシートを完成させていく過程が本時の思考の過程であり、これらの思考は、それぞれの場所と自分たちとのつながりという学習内容の構造に基づいています。

今回の提案は、子どもの思考を促すことを目指した本校の授業づくりにおいて、示唆を与えられるものでした。なお、2年生の先生方は、先般、研究推進計画でお示した関西大学初等部では、思考を「思考スキル」とそれを活用するための「思考ツール」を基に考えられています。<sup>(1)</sup>



今年度1回目の全体授業研でした。各学年で、昨年に引き続き、「学び合い」のある社会科・生活科の授業づくりと新たな教材開発が進められていることと思います。全体授業研を、それらを共有化し、よりよく吟味・検討していく場としていきたいと思えます。皆さんのお力で、新たな学びや示唆を与え合える会にしていきたいと思います。よろしくお願いいたします。

#### 【 註 】

(1) 参考文献として、

関西大学初等部『関大初等部式 思考力育成法』 2012 さくら社

関西大学初等部『思考ツール－関大初等部式思考力育成法〈実践編〉－』 2013

さくら社

が挙げられる。